

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人 一心会		
事業所名	グループホーム やまが苑 東ユニット		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地の1		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ、苑の裏庭では花壇や畑に野菜や花を植えており、収穫を楽しんだりまた漬物を作ったり収穫した食材を食事に取り入れています。近隣に保育園や幼稚園・併設の養護老人ホームやデイサービスがあり、地域の夏祭りや行事も互いに協力しあい交流を図って印す。レクリエーションでは、健康体操・生花教室・法話等行い日常生活のリフレッシュを図っています。近隣の散歩のほか、毎月外出する機会を計画し、足湯や外食・買物・観劇等に出掛け気分転換を心掛けています。また、医療面では、協力病院に診療科目が多いのも安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の保育園、幼稚園、高齢者施設と連携して祭りを開き、地域の楽しみ場となっている。毎月、利用者を中心とした座談会があり、食事のリエストや思い、意見を伝えサービスに活かされている。職員は一人ひとりの気持ちを大切にした本人本位の支援を基本に、寄り添ったケアを目指している。毎日が楽しく過ごせるよう工夫し、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。重度化した時の看取りについても具体的に検討されており、誰がどのような支援をするか明確に取り組める体制である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別にグループホーム独自の地域密着理念について職員全員で話し合いをし見直しを行い、理解をし支援につなげている。	職員で話し合い作成した、地域に根差した理念であるが、より現状に即した理念に向け検討中である。理念を毎日のケアに活かし、支援の原点としている。職員は実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や近隣の保育園・幼稚園の行事に参加している。地域の文化祭では作品を出品している。また回覧板で広報誌を掲載してもらい、苑内行事への参加を促している。また行き付けの散髪店で散髪ができるように支援している。	隣接した市農業改善センターに地域の方が集まった時に立ち寄ってくれたり、グループホームの学習会をセンターで開いている。また、隣の幼稚園や保育園と共同で夏祭りも実施している。地域の一員として市民文化祭に作品を出品している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学・高校生の実習を積極的に受け入れている。また介護教室を年3回行い、地域の方々と認知症の勉強会を行っている。しかし、まだ不十分である為、学童との交流や地域へと出向き交流を深めていきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価を行った結果、改善に向けて検討した内容等報告している。また改善内容についての意見や要望等をいただき、サービスの向上に努めている。	2ヶ月ごとに開催し、地域代表から行事や地域活動について積極的に情報を提供があり、ケアの実践に繋げている。また、外部評価結果について会議で伝え、改善について話し合っている。市役所担当者も参加し、アドバイスをもらっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、常に情報交換や相談を行っている。更新認定の際に、担当者へケアの取り組みについての話し合いの場を設けている。	ホームのすぐ近くに市役所担当課があり、何でも相談できる関係ができています。会議の開催場所も市役所を活用して、担当者と連携ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりのその日の状態を職員が把握し、鍵をかけずに自由な暮らしができる様に心掛けている。また、職員会議や内部研修で勉強会をし理解を深めている。またマニュアルを作成しており、職員がいつでも回覧出来る様にしている。	危険や心配なことがあれば家族と話し合い問題解決に取り組んでいる。マニュアルも作られ職場内の研修も開き、自由な暮らしができるよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で観察・注意し、虐待が行われ無い様に努めている。また会議の際に上司より徹底するよう呼びかけを行っている。また研修の機会があれば参加出来るように努めている。		

事業者名: グループホームやまが苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の利用者が安心サポートを活用しており、職員は実務の一貫を知ることが出来ている。また研修や会議で学ぶ機会を設けているが理解にはまだ不十分である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に沿って詳細に説明し、不安や疑問点についても気兼ねなく相談できる様に配慮している。状態の変化等により、契約解除に至る場合は、本人・家族等と今後の対応方針を話し合っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者の意見や要望を聞く機会として、井戸端会議を開催している。その中で出された意見を検討し、日々の支援に反映させている。また運営推進会議や家族会での意見もケアに反映させている。	職員と利用者で毎月座談会を開き、食べ物の要望などを聞いている。家族会は年3～4回開催され、外食や足湯などへ一緒に出掛けている。家族アンケートも実施して反映している。選挙は期日前投票に添い、支援している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で意見や提案を引き出せるように努めている。出された提案等は、管理者、各ユニットにて話し合い実践に向けて努力している。また年に数回代表者との面談の場を設けている。	苑長が年3回ほど職員と面談して、各自の意見を聞き取り、管理者と共に改善に向けた取り組みをしている。職員は職場内で意見が気軽に言え、反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回代表者との個人面談を行っており、職員のやりがいを引き出せる様に心掛けている。しかし不満や苦情は言いがたい部分もある為、把握出来ていない可能性もある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修へ全職員が交代で受講できるように心掛けている。受講した研修は毎月の会議にて報告しており、また研修報告は回覧で全職員が閲覧できるようにしている。また、事業所に講師を招いての研修も実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会やグループホーム連絡会で検討事例や交換実習を設け、サービスの質の向上に励んでいる。また実習生も積極的に受け入れ、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況や本人・家族の困っている事等を把握するように努めている。本人・家族の話を傾聴する事で安心してもらい、より良い関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・求めている事を十分に傾聴・理解し、不安等を取り除き安心できる様に配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応等が必要な相談者には柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービス利用につなげる等の支援もやっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る力を維持し、職員と共に調理や洗濯干し等お互い協力しながら生活出来る様に、声掛けや場面作りに努めているが、不十分であるため共に過ごしあう関係作り、よりそうケアを心掛ける様に努めていく。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を来苑時や近況報告(毎月担当者送付)で詳細に伝える事で、家族と職員の思いが重なり、一緒に支えていく為の協力体制が築かれている。また外出行事や家族会、介護教室にも参加され共に楽しんでいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用している理・美容院へと行ける様に支援を行っている。またドライブ等の際に、馴染みの場所等へ行ける様に配慮している。	近くの市立図書館や野菜直売所など馴染みの場所に出掛けている。自宅が気になる方は家の中を確認し、墓参りや行きつけの理・美容院に行っている。また、グループホームのデイサービスに家族が通い絆を深めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や能力、役割等職員間で情報を共有し把握している。心身の状態や気分により日々変化する事もある為きめ細かく見守り、関係が円滑になる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談等にもり、長期入院の利用者には安心出来る様日々面会に行ったり、洗濯物を引き受けて関係をつなげている。他施設へと移られる場合、支援状況等提供し、機会を作って訪問等行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りにおいて本人の言葉や表情、声掛け等から把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者には、関係者から情報を得たり、本人の立場にたった支援等を会議等で検討しているが、まだまだ不十分である為、工夫が必要である。	本人のできることや希望することが具体的に聞き取れており、重度の方に対しては思いや意向を引き出し、支援に繋いでいる。職員は利用者本位のケアをしようと意欲がみられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人や家族・関係者から情報を収集し、把握に努めている。また自宅での生活環境を見せていただけの方は見せていただき、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムの把握に努めている。残存機能と何が出来るかを視点におき、能力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望をくみ、居室担当職員のモニタリングからカンファレンスで意見交換を行い、生活支援計画に繋げている。また状態変化等あった場合はその都度担当者会議を行い、ケアを見直している。	毎月会議を開き、職員で意見を出し合い、本人や家族の思いを聞き取り、プランに反映している。目標に対しての支援の内容や方法が書き込まれ、個別に対応した介護計画となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状態変化、本人の言葉等は個々のケア記録に記載している。気づきやケアの実践状況が変わった場合には伝達ノートに記載し、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師による体調管理、協力病院やかかりつけへの病院への受診、また手術の際には、一晩中付き添う等必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、訪問理・美容を活用している。また地域の図書館も利用し本を借りている。併設施設に生花や法話、行事等にも参加し交流を図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や利用者のかかりつけ医での医療を受けられるように支援している。また訪問診療にも来て頂き、複数の医療機関との関係作りに努めている。	利用者の慣れ親しんだ医療機関を継続して通院でき、職員が同行している。家族との連絡も取りあい、ケースにより訪問診療も可能である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態の変化に応じた対応を行っている。看護職員が不在の場合には併設施設の看護職員の協力を得て相談援助を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に利用者の支援に関する情報を提供している。また面会時に医師や看護師との情報交換や相談等を行っている。家族とも連絡を密にして、速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の納得・安心を得られる様に、状態変化があった場合には話し合いを行っている。また医師や看護師等とも状態変化に対する指針を定め、職員全員で方針を共有している。	重度化に向け、職員の役割分担や支援内容が具体的に明記されており、家族にも説明している。状態に応じて話し合いを行い、利用者や家族も安心できるよう自分たちとしてできる看取りに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習を受講し、対応出来る様にしている。夜間の緊急対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また職員会議等で勉強会を行い、実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て利用者と共に避難・通報・消化訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議にて呼びかけて、協力をお願いしている。	定期的な訓練があり、夜間想定もされ、自治会長も参加している。消防署も近くバックアップ体制があり、備蓄も用意されている。自然災害のリスクの少ない立地なので、地域の避難場所としての受け入れが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方を留意点として掲げているが、本人の気持ちを大切に声掛けや気持ちに寄り添う言葉掛けが不十分である為、気づいたときに職員同士が注意する様努めている。	本人の気持ちを大切に、プライバシーやプライドを尊重した支援である。本人がどう過ごしたいか配慮しながら個々に対応して、言葉掛けもゆったりと穏やかである。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく、選びやすい様な声かけ、働きかけを行っている。意思表示が困難な利用者には、表情を読み取る様に努め、また本人の立場にたった支援を心掛けているがまだまだ不十分である。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けているが食事・入浴・行事等職員の都合で決められることもある為、利用者に寄り添った支援が必要である。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は化粧品を用意し、お洒落を楽しめる様に支援している。また本人の馴染みの理・美容院で希望に合わせたカットや毛染めが出来る様に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・盛り付け等行う事により食事の楽しみ、雰囲気づくりを大切にしている。利用者個々の力を活かしながら職員と一緒に行う事が大切であり、前向きな意思や気持ちを引き出せる様な声掛けを行っている。また月1回の給食会議にも出席して頂き、意見・要望等言っていたいである。	好きなものを給食会議でリクエストし、メニュー化され、昔懐かしいおやつを手作りする機会を設けている。職員とテーブルを囲み楽しく会話をしながら家庭的である。食事形態も咀嚼能力に応じミキサー食でもじっくりと食べれるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量・水分量は個々のケース記録に記載している。状態に応じて食事形態を変えたり、食べ易い物や本人の好きなものを提供する様にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて食後は洗面所にて口腔ケアを行っている。歯や義歯の無い方は口腔ウエッティや舌ブラシを使用するなど個々に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの時間やパターンを把握しトイレ誘導をする事でトイレで排泄できる様に支援している。日中はなるべくリハビリパンツの使用を避け、綿ショーツと尿とりパットを使用する様に努めている。	パターンを把握して事前に誘導、トイレで自立した排泄が継続できるよう支援している。夜間と昼間の下着も使い分け、羞恥心やプライドに配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、乳製品や柑橘系のジュース・青汁等飲用して頂き、排泄を促している。またラジオ体操や散歩等で身体を動かせるように支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に沿った時間や、利用者のタイミングを図りながら行っている。健康状態に応じて、隔日に入浴する方、シャワー浴・清拭等の支援を行っている。季節によってはざぼん・柚子・菖蒲・入浴剤で入浴を楽しんでいただいている。	楽しく入浴できるよう工夫し、出来るだけ希望に添った時間にタイミングをみて誘導している。隔日の入浴が基本であるが、失禁や要望により臨機応変に支援し、デイサービス利用者は希望により毎回入浴できている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを測っている。寝付けない時には飲み物を用意し一緒に会話したり、テレビを見たり等の配慮をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの内服薬についてのファイルを作成し、いつでも閲覧出来る様になっている。また薬剤を飲みやすい形状にしよう等、医師・薬剤師に相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を職員全員が把握し、一人ひとりの力を発揮出来る様な場面を提供し、職員と一緒にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や気分に応じて短時間でも戸外に出られる様に心掛けている。近隣の足湯や外食、またお弁当をもったドライブへ出かける等、積極的に取り組んでいる。また家族会にて年1回外食行事を取り入れている。	近所の野菜直売所への買物や、散歩も日常的に出掛けている。裏庭は日当たりがよく外気に触れることができる。デイサービスの送迎に同行してミニドライブも楽しんでいる。家族会での外食や毎月のドライブ、要望に応じた個別の外出、食べたいものを買いに行くなど支援している。	

事業者名: グループホームやまが苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持している利用者もいるが、トラブルにならないように殆んど事業所にて管理している。買物に行った際には、個人の財布より支払える様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に手紙のやり取りがや、電話等出来る様に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる様に四季折々の置物や貼り絵、利用者が作成した作品や写真を飾っている。また毎月のカレンダー作りを利用者と一緒に行い展示している。日当たりの良い窓辺にはベンチを置き、ゆっくりとくつろげる様にしている。	随所に鉢植えの花を飾り、手作りの作品を飾っている。炬燵でくつろげる配慮や渡り廊下でひなたぼっこができるよう居心地の良い空間づくりがされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や中庭にベンチ等を置き、1人で過ごしたり、気の合った利用者にくつろげる様に心掛けている。また、ソファや掘りごたつも設置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇を置いたり、利用者・家族と相談しながら、使い易い様にダンスやテーブルを配置し、居心地良く過ごせる様に配置している。	個人の好みに合わせた家具配置や飾りをしている。仏壇や馴染みの人形、家具、思い出の写真などが飾られ、本人と家族の思いがこもった居室である。職員が手作りの飾りで居室が分かるように心配りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせてトイレやお風呂場に立位バーを取り付けている。場所等分かる様に大きく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491000057		
法人名	社会福祉法人 一心会		
事業所名	グループホーム やまが苑 西ユニット		
所在地	大分県杵築市山香町大字野原1405番地の1		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境に恵まれ、苑の裏庭では花壇や畑に野菜や花を植えており、収穫を楽しんだりまた漬物を作ったり収穫した食材を食事に取り入れています。近隣に保育園や幼稚園・併設の養護老人ホームやデイサービスがあり、地域の夏祭りや行事も互いに協力しあい交流を図って印す。レクリエーションでは、健康体操・生花教室・法話等行い日常生活のリフレッシュを図っています。近隣の散歩のほか、毎月外出する機会を計画し、足湯や外食・買物・観劇等に出掛け気分転換を心掛けています。また、医療面では、協力病院に診療科目が多いのも安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(東ユニットと同様)

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別にグループホーム独自の地域密着理念について職員全員で話し合いをし見直しを行い、理解をし支援につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や近隣の保育園・幼稚園の行事に参加している。地域の文化祭では作品を出品している。また回覧板で広報誌を掲載してもらい、苑内行事への参加を促している。また行き付けの散髪店で散髪ができるように支援している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学・高校生の実習を積極的に受け入れている。また介護教室を年3回行い、地域の方々とは認知症の勉強会を行っている。しかし、まだ不十分である為、学童との交流や地域へと出向き交流を深めていきたい。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	自己評価を行った結果、改善に向けて検討した内容等報告している。また改善内容についての意見や要望等をいただき、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、常に情報交換や相談を行っている。更新認定の際に、担当者へケアの取り組みについての話し合いの場を設けている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりのその日の状態を職員が把握し、鍵をかけずに自由な暮らしができる様に心掛けている。また、職員会議や内部研修で勉強会をし理解を深めている。またマニュアルを作成しており、職員がいつでも回覧出来る様にしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で観察・注意し、虐待が行われ無い様に努めている。また会議の際に上司より徹底するよう呼びかけを行っている。また研修の機会があれば参加出来るように努めている。	/	/

事業者名: グループホームやまが苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の利用者が安心サポートを活用しており、職員は実務の一貫を知ることが出来ている。また研修や会議で学ぶ機会を設けているが理解にはまだ不十分である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に沿って詳細に説明し、不安や疑問点についても気兼ねなく相談できる様に配慮している。状態の変化等により、契約解除に至る場合は、本人・家族等と今後の対応方針を話し合っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者の意見や要望を聞く機会として、井戸端会議を開催している。その中で出された意見を検討し、日々の支援に反映させている。また運営推進会議や家族会での意見もケアに反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で意見や提案を引き出せるように努めている。出された提案等は、管理者、各ユニットにて話し合い実践に向けて努力している。また年に数回代表者との面談の場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回代表者との個人面談を行っており、職員のやりがいを引き出せる様に心掛けている。しかし不満や苦情は言いがたい部分もある為、把握出来ていない可能性もある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修へ全職員が交代で受講できる様に心掛けている。受講した研修は毎月の会議にて報告しており、また研修報告は回覧で全職員が閲覧できるようにしている。また、事業所に講師を招いての研修も実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会やグループホーム連絡会で検討事例や交換実習を設け、サービスの質の向上に励んでいる。また実習生も積極的に受け入れ、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状況や本人・家族の困っている事等を把握するように努めている。本人・家族の話を傾聴する事で安心してもらい、より良い関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・求めている事を十分に傾聴・理解し、不安等を取り除き安心できる様に配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応等が必要な相談者には柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービス利用につなげる等の支援も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る力を維持し、職員と共に調理や洗濯干し等お互い協力しながら生活出来る様に、声掛けや場面作りに努めているが、不十分であるため共に過ごしあう関係作り、よりそうケアを心掛ける様に努めていく。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を来苑時や近況報告(毎月担当者送付)で詳細に伝える事で、家族と職員の思いが重なり、一緒に支えていく為の協力体制が築かれている。また外出行事や家族会、介護教室にも参加され共に楽しんでいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より利用している理・美容院へへ行ける様に支援を行っている。またドライブ等の際に、馴染みの場所等へ行ける様に配慮している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や能力、役割等職員間で情報を共有し把握している。心身の状態や気分により日々変化する事もある為きめ細かく見守り、関係が円滑になる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談等にもり、長期入院の利用者には安心出来る様日々面会に行ったり、洗濯物を引き受けて関係をつなげている。他施設へと移られる場合、支援状況等提供し、機会を作って訪問等行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りにおいて本人の言葉や表情、声掛け等から把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者には、関係者から情報を得たり、本人の立場にたった支援等を会議等で検討しているが、まだまだ不十分である為、工夫が必要である。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人や家族・関係者から情報を収集し、把握に努めている。また自宅での生活環境を見せていただける方は見せていただき、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムの把握に努めている。残存機能と何が出来るかを視点におき、能力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望をくみ、居室担当職員のモニタリングからカンファレンスで意見交換を行い、生活支援計画に繋げている。また状態変化等あった場合はその都度担当者会議を行い、ケアを見直している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状態変化、本人の言葉等は個々のケア記録に記載している。気づきやケアの実践状況が変わった場合には伝達ノートに記載し、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師による体調管理、協力病院やかかりつけへの病院への受診、また手術の際には、一晩中付き添う等必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、訪問理・美容を活用している。また地域の図書館も利用し本を借りている。併設施設に生花や法話、行事等にも参加し交流を図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や利用者のかかりつけ医での医療を受けられるように支援している。また訪問診療にも来て頂き、複数の医療機関との関係作りに努めている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態の変化に応じた対応を行っている。看護職員が不在の場合には併設施設の看護職員の協力を得て相談援助を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に利用者の支援に関する情報を提供している。また面会時に医師や看護師との情報交換や相談等を行っている。家族とも連絡を密にして、速やかな退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の納得・安心を得られる様に、状態変化があった場合には話し合いを行っている。また医師や看護師等とも状態変化に対する指針を定め、職員全員で方針を共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習を受講し、対応出来る様にしている。夜間の緊急対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また職員会議等で勉強会を行い、実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て利用者と共に避難・通報・消化訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議にて呼びかけて、協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方を留意点として掲げているが、本人の気持ちを大切に声掛けや気持ちに寄り添う言葉掛けが不十分である為、気づいたときに職員同士が注意する様努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく、選びやすい様な声かけ、働きかけを行っている。意思表示が困難な利用者には、表情を読み取る様に努め、また本人の立場にたった支援を心掛けているがまだまだ不十分である。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けているが食事・入浴・行事等職員の都合で決められることもある為、利用者に寄り添った支援が必要である。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後は化粧品を用意し、お洒落を楽しめる様に支援している。また本人の馴染みの理・美容院で希望に合わせたカットや毛染めが出来る様に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・盛り付け等行う事により食事の楽しみ、雰囲気づくりを大切にしている。利用者個々の力を活かしながら職員と一緒に行う事が大切であり、前向きな意思や気持ちを引き出せる様な声掛けを行っている。また月1回の給食会議にも出席して頂き、意見・要望等言っていたいしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量・水分量は個々のケース記録に記載している。状態に応じて食事形態を変えたり、食べ易い物や本人の好きなものを提供する様にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて食後は洗面所にて口腔ケアを行っている。歯や義歯の無い方は口腔ウエッティや舌ブラシを使用するなど個々に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの時間やパターンを把握しトイレ誘導をする事でトイレで排泄できる様に支援している。日中はなるべくリハビリパンツの使用を避け、綿ショーツと尿とりパットを使用する様に努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、乳製品や柑橘系のジュース・青汁等飲用して頂き、排泄を促している。またラジオ体操や散歩等で身体を動かせるように支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望に沿った時間や、利用者のタイミングを図りながら行っている。健康状態に応じて、隔日に入浴する方、シャワー浴・清拭等の支援を行っている。季節によってはざぼん・柚子・菖蒲・入浴剤で入浴を楽しんでいただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを測っている。寝付けない時には飲み物を用意し一緒に会話したり、テレビを見たり等の配慮をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの内服薬についてのファイルを作成し、いつでも閲覧出来る様になっている。また薬剤を飲みやすい形状にしよう等、医師・薬剤師に相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を職員全員が把握し、一人ひとりの力を発揮出来る様な場面を提供し、職員と一緒にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や気分に応じて短時間でも戸外に出られる様に心掛けている。近隣の足湯や外食、またお弁当をもったドライブへ出かける等、積極的に取り組んでいる。また家族会にて年1回外食行事を取り入れている。		

事業者名: グループホームやまが苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持している利用者もいるが、トラブルにならないように殆んど事業所にて管理している。買物に行った際には、個人の財布より支払える様支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に手紙のやり取りがや、電話等出来る様に支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる様に四季折々の置物や貼り絵、利用者が作成した作品や写真を飾っている。また毎月のカレンダー作りを利用者と一緒に行い展示している。日当たりの良い窓辺にはベンチを置き、ゆっくりとくつろげる様にしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や中庭にベンチ等を置き、1人で過ごしたり、気の合った利用者とくつろげる様に心掛けている。また、ソファや掘りごたつも設置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や仏壇を置いたり、利用者・家族と相談しながら、使い易い様にタンスやテーブルを配置し、居心地良く過ごせる様に配置している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせてトイレやお風呂場に立位バーを取り付けている。場所等分かる様に大きく表示している。		